

受験番号			
------	--	--	--

令和3年度

精道三川台中学校 第2回入学試験問題

国語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 解答用紙の中にはさんであります。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、受験番号を問題冊子および解答用紙の受験番号らんに記入しなさい。
- 4 問題は **一** ～ **四** で、1ページから11ページまであります。
- 5 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 6 「やめ」の合図で、筆記用具を置きなさい。
- 7 試験終了後は、問題冊子および解答用紙を机の上に置いたまま指示があるまで待ちなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学三年生の心平は川で見つけた大きな「雨鱒あめます」という魚に夢中になっている。次の文章は、心平が「ヤス」という道具で雨鱒を捕まえようとして川にやってきた場面である。これを読んであとの問いに答えなさい。

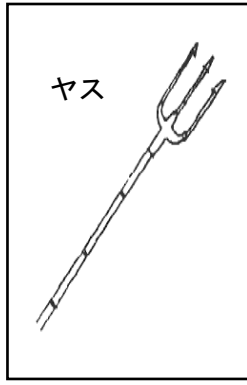
ふいに、大きな魚影ぎよえいが心平の目を横切った。心平はすぐに雨鱒だとわかった。まだ※1勢い止めから離れずはなにいたのだ。

「いた！」心平は水面から顔を上げていった。いつもの儀式ぎしきだった。

心平は急いで水中をのぞきこむと、みうしなつてなるものかと目を見開いて雨鱒のうしろすがたを追った。雨鱒は背中の白い斑点せなかをゆらめかせて、大きな丸石の向こう側に消えると、すぐに一回りしてまたすがたを見せた。雨鱒は、大きな石と石の間から身を乗り出すようにして、ア 静止すると、じつと心平を見た。ゆつたりと呼吸こきゅうしていた。背せレと胸むなビレもゆつたりと動かししていた。一点に静止するための動作だった。

ヤスを突つくには遠すぎたので、心平はそつと近づくことにした。

心平は身をかがめて近づいた。心平が近づいても、雨鱒はじつと心平を見ているだけで、逃にげるようなそぶりはちつとも見せなかった。距離きょりが縮ちぢまると、雨鱒の背中の斑点がはつきりと見てとれた。実にきれいだった。心平はもう一歩前進した。川床かわどこの砂すなが少し舞まい上がった。雨鱒はまだじつとして動かなかった。大きな目が心平を見ていた。心平はさらに雨鱒に近づいた。今度はヤスがとどく距離きょりだった。しかし、① もう少し近づけば万全だったので、心平はどうしようかと迷ったが、意を決して近づくことにした。心平はそつと注意して近づいた。まだ雨鱒は逃げなかった。もう、雨鱒は手のとどきそうな距離になっていた。心平は緊張きんちやうした。② ゆつくりと、慎重しんちやうに前進した。心平は、心臓ぞうが大きく



鼓動こどうしているのがわかった。初めて魚を突いた時もこんな感じだったが、いま心平はそのことは忘れていた。目の前の雨鱒あまづのことしか頭になかった。

心平はヤスを身体からだの脇わきに引き寄せると、緊張③して持つ手にギョツと力を入れた。左手でしっかりと丸太をつかんで、バランスがくずれないように身体を支えた。丸太はぬるぬるしてすべったので、心平は身体を支えるだけにした。それだけでも心強かった。

雨鱒あまづを突く(イ)タイセイはすつかり(ウ)整ととのった。あとは、※₂秀二郎しゅうじろう爺ぢつちやに教えてもらった手順を素早くやってのければよかった。心平は、もうヤスの重さを感じていなかった。口がかわいて、ドキドキする心臓こどうの、大きくて早い鼓動こどうだけが感じられた。

心平は、雨鱒あまづに悟さとられないように、注意して、そつと、ヤスの※₃穂先ほさきを雨鱒の頭上に持っていった。それでも、雨鱒は動かなかった。心平は、もうひと呼吸、**A**ヤスの穂先を近づけた。

雨鱒の頭上で、切っ先の狙ねらいが**B**定まった。あとはいっきに突けばよかった。すると、心平は急に手が震ふるえた。刺激しげきが強すぎたのだ。ヤスの穂先が**C**震えてしまった。その瞬間しゅんかん、雨鱒はあつという間に反転して、石の向こう側に消えてしまった。

「はい！逃げられたじゃ！」心平はがっかりした。水中をのぞいたまま声に出していった。

緊張がとけていった。急にヤスが手に重くなった。その時、心平は初めて背中に水滴すいてきが落ちたのを感じた。いつの間にか雨が降ふってきたのだった。雨は、まだ**D**散発さんぱつ的てきだった。気温がぐつと下がり始めたのがわかった。

④心平は立ちあがると、笑つてため息をついた。

「はあ、ドキドキしたあ」と心平はいった。

逃げられたのはがっかりしたけど、もう少しのところまで追いつめたことがうれしかった。次の(エ)キカイにはきつと仕留めることができる。希望と自信が、少年の胸にふくらんでいった。

※1 勢い止め：川の流れを弱めるために丸太を組んで水をためているところ。

※2 秀二郎爺っちゃんに教えてもらった手順：心平は雨鱒にくわしい「秀二郎爺っちゃん」という老人に雨鱒の捕まえ方を教わっている。

※3 穂先：ヤスの先のがった部分。

問一 Ⅱ線部（ア）く（エ）のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 Ⅰ線部①「もう少し近づけば万全だった」とあるが、ここでの「万全」とはどういうことか説明しなさい。

問三 Ⅰ線部②「ゆっくりと、慎重に前進した」とあるが、この時の心平の心情や様子を説明した次の文を、空らんに言葉を当てはめて完成させなさい。ただし、（1）は文中の言葉を用いて二十字以内で、（2）は適当な言葉を二字で答えなさい。

（1）ため緊張している。同じような感じは前にもあったが、今は雨鱒に近づき、捕まえることに（2）している。

問四 Ⅰ線部③「緊張して持つ手にギュツと力を入れた」とあるが、これと同じように心平が緊張している様子を具体的に描いた部分のうち、三十字以上三十五字以内の一文を探し、その最初と最後の五字を抜き出さなさい。（ただし、字数には句読点も含む。）

問五 空らん にあてはまる言葉を次から一つずつ選び、記号で答えなさい。
ア ブルブルと イ ポツリポツリと ウ そつと エ ピタリと

問六 |線部④「心平は立ちあがると、笑ってため息をついた」とあるが、この時の心平の心情を五十字以内で説明しなさい。

問七 次の発言はこの場面を読んで、感じたことを述べたものである。四人の発言のうち、文章の内容に合っているものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア Aさん―「心平の雨鱒を捕まえようと必死になっている気持ちがよくわかります。なぜなら手に持っていたヤスをふり回しているからです。」

イ Bさん―「この場面には方言がたくさん使われていて少しわかりにくいところがあると思いますが、どこかおだやかな様子も伝わってきます。」

ウ Cさん―「美しい川が想像できました。舞い上がった砂や雨鱒の斑点が見えるほど川の水がきれいなのだということがわかります。」

エ Dさん―「魚と人間のはげしい戦いがくわしく書かれています。その戦いを通して自然を守ることの大切さを伝えていると思います。」

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一九七〇年代、何人かの研究者が、南極のロス海域でアデリーペンギンの※¹定位能力に関する簡単な実験を行った。ある繁殖地からペンギンを連れ去り、何キロメートルも離れた海氷上に放置してその後の行動を観察したのである。研究者は、ペンギンたちがカゴから放たれた①伝書バトのように、群れでいつせいに行動すると②キタイしていたのだが、その予測はみごとに③裏切られた。鳥たちは、一羽ずつ別々に動き始めたのだ。A、その方向はほぼ同じだった。

そして、太陽が出ている間は「確信を持って」一定方向に歩いていくが、曇ってしまうと動きが鈍くなったり、進まなくなったりした。あるいは、太陽が出ていたときに進んでいた方向にゆっくり歩いていった。陸上（正確に言えば氷原上）での観察から、ペンギンは他の飛翔性の鳥と同じく、太陽を一つの重要な目印として方位を判断している。多くの研究者はそう考えている。

ただし、この場合、注意すべき条件がある。南極の氷原は必ずしも平坦ではないということだ。テレビや写真集で見える南極は、美しい雪と氷の世界。氷がスケートリンクのようにどこまでも滑らかに広がっているように見える。しかし、この巨大な氷の造形は④ヤセイそのものだということを忘れてはいけない。南極大陸上で形成された氷河は、絶えず海に向かってIと移動し、その先端は海上に棚氷となつて押し出している。氷山はその棚氷の末端がひび割れて流れ出したものだ。

岸近くの海上を埋め尽くす浮氷は、海水が凍つてできる。そして、棚氷も氷山も浮氷も、潮の満ち引きや、強風、海流、気温などの影響を受けて絶えず動いているのだ。氷は常に割れ、ぶつかり合い、大きく盛り上がったかと思つと引き裂かれて深いクレバスがII出現したり、その下にある黒い海面が顔をのぞかせたりする。B、南極の氷の世界は、起伏に富み、いたるところに危険な落とし穴が待ち構えている「危険地帯」なのだ。

切り立った氷のクレバスは、時に⑤雪上車や人間をも呑み込み、破壊し、命を奪う。小さなペンギンにとって、

この氷原は氷の小山と落とし穴が連なる荒野なのだ。ロス海の活火山、エレバス山のように目立つ高峰があればよいが、体高一メートルにも満たないアデリーペンギンにとって、常に形を変える氷の壁は、方位を知る手がかりには決してならない。だから、巨大な氷山が漂着したり、天候の急変で浮氷が著しく変形すると、多くのペンギンがクレーバスに閉じ込められてしまうことも珍しくない。そうになると、ペンギンたちは餓死と凍死を待つしかない。

そういう氷原では、なかまの足跡はたいへんありがたい目印になる。だいたいの方角は太陽が教えてくれるが、安全なルートを目で確認することは、氷の山がじゃままで不可能だ。となれば、同じ方角に進んだ先達の後を追うことが(エ)次善の策。エンペラーペンギンが1列縦隊になって歩くのは、^③そういう事情があるからだ。こうして、多数のペンギンが歩いた後には、必ず「ペンギン道」ができる。「ペンギン道」は南極だけでなく、すべてのペンギンの繁殖地に見られる。最も印象深いのは、イワトビペンギンの道だ。

C、フオー克蘭ド諸島のイワトビの^{※3}コロニーには、上陸地点の磯から数十メートル登った断崖上の巣場所まで続く岩場に、ペンギンたちの爪跡がくつきり刻印されている。数百年、いや数千年間にわたってイワトビたちの黒く鋭い爪が、硬い岩肌^{かた}に深い筋状の文様を彫刻したのである。「ペンギン道」は、この鳥が陸上では地形や地物を目印にして、そして道ができてからは道そのものを目印にして、歩く方向やルートを決めている証拠の一つだと考えられる。

〈「ペンギンのしらべ方」上田一生〉

※1 定位能力・・・ある事物の位置を一定に定める能力のこと。

※2 先達・・・先輩。後に続く者を導く人。

※3 コロニー・・・ある地域に定着した同一種の生物の集団。

問一 Ⅱ線部(ア)、(イ)を漢字に直しなさい。また、Ⅱ線部(ウ)、(エ)の読みをひらがなで書きなさい。

問二 ―線部①の表現技法名を次にあげるものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 体言止め ウ 直喩 エ 倒置法

問三 ―線部②「裏切られた」を、意味を変えずに別の言葉で表現しなさい。

問四

A

、

B

、

C

に当てはまる言葉を次にあげるものの中から選び、それぞれ

記号で答えなさい。

ア しかし イ たとえば ウ あるいは エ つまり

問五

I

、

II

に当てはまる言葉を次にあげるものの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア スクスク イ ポツカリ ウ ジリジリ エ テクテク

問六 ―線部③「そういう事情」を指し示す五十字以内の一文を文中から抜き出し、その最初と最後の五文字を答えなさい。（ただし、時数には句読点を含む。）

問七 本文中のペンギンの行動から分かる、ペンギンの「生きていく力」とはどういうものか。二点簡潔に説明しなさい。

三 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

原っぱ

長田 弘

① 原っぱには、何もなかった。ブランコも^{※1}遊動円木もなかった。ベンチもなかった。一本の木もなかったから、木陰もなかった。激しい雨がふると、そこにもここにも、おおきな **A** ができた。原っぱのへりは、いつもぼうぼうの草むらだった。

きみはじめてトカゲをみたのは、原っぱの草むらだ。はじめてカミキリムシをつかまえたのも。きみは原っぱで、自転車に乗ることをおぼえた。野球をおぼえた。はじめて口惜し泣きした。春に、 **B** がいつせいに空飛ぶのを見たのも、夏に、 **C** アンタレスという名の星をおぼえたのも、原っぱだ。冬の風にはじめて大風を揚げたのも。原っぱは、いまはもうなくなってしまった。

原っぱには、何もなかったのだ。けれども、誰のものでもなかった何も無い原っぱには、ほかのどこにもないものがあった。きみの自由が。

※1 遊動円木：遊具の一つで、太い丸太の両端を鉄の鎖などで低くつるし、前後に揺り動かせるようにしたもの。

問一 ー線部①「原っぱには、何もなかった」とあるが、何もないことを強調するために例としてあげているものを、第一連の中から、すべて抜き出して答えなさい。

問二 に入る適当な言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 海 イ 庭園 ウ お花畑 エ 水溜まり

問三 に入る適当な言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア セミ イ トンボ ウ タンポポ エ イチヨウ

問四 に入る言葉を、第二連の中から抜き出して答えなさい。

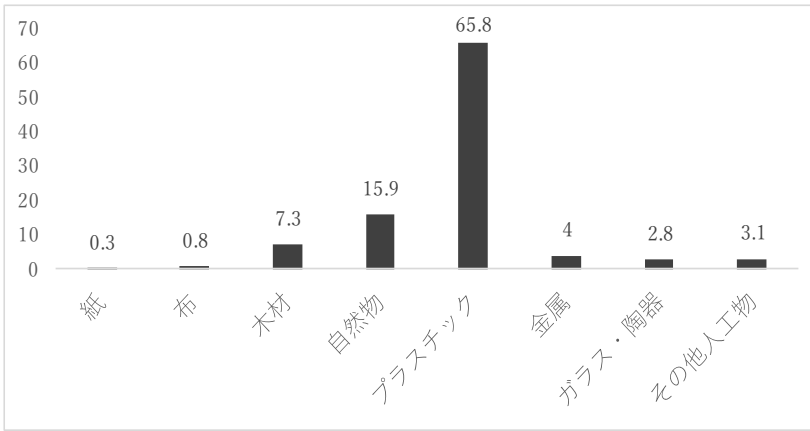
問五 第二連から、「きみ」にとって「原っぱ」はどんな場所であると言えますか。二十字以内で答えなさい。

問六 「原っぱ」にあったものとは何ですか。本文中から抜き出して答えなさい。

四

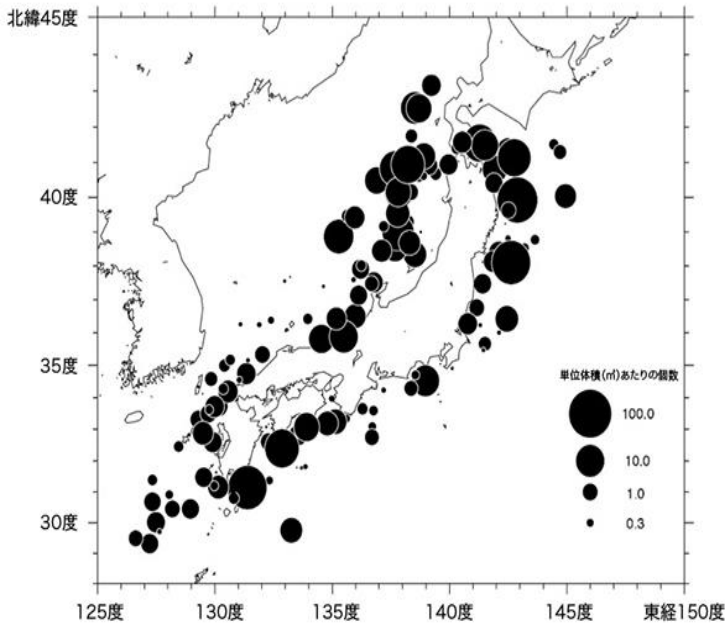
次の複数の資料を見て、あとの問いに答えなさい。

〈図一〉海洋ゴミの種類別割合



日本財団 海と日本プロジェクトより

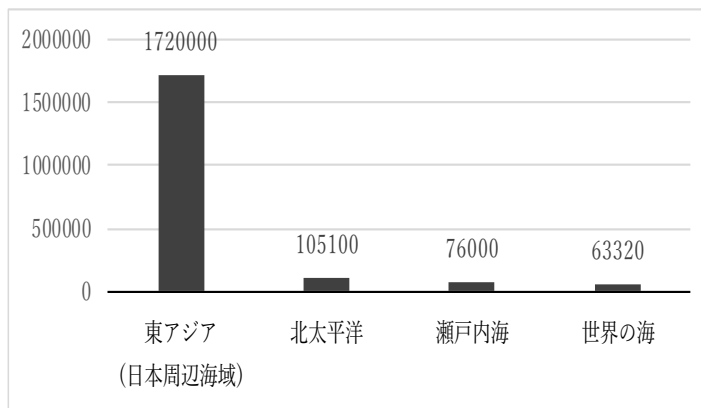
〈図二〉日本周辺の海域の表層を浮遊するマイクロプラスチックの濃度



旭化成ホームページより

（個数／立方メートル）

〈図三〉海洋一キロメートルあたりに存在するマイクロプラスチックの個数



「データの時間」

九州大学の研究データより

存在するマイクロプラスチックの個数

問一 〈図一〉 〈図二〉 〈図三〉の三つから共通してわかることを簡潔に答えなさい。

問二 マイクロプラスチックとは、環境中に出された使用済プラスチックが最終的に海に流れ着き、紫外線や波の影響で劣化していったものうち、五ミリメートル以下のサイズになったものです。〈図二〉から読み取れることとして、最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア マイクロプラスチックの浮遊の濃度には、東日本大震災が深く影響している。
- イ 九州の沿岸でも、マイクロプラスチックが浮遊していると言うことができる。
- ウ 日本海側のほうが、太平洋側の四倍、マイクロプラスチックが浮遊している。
- エ 太平洋沿岸では、愛知県沿岸のマイクロプラスチックの濃度が高いと言える。

問三 〈図一〉 〈図二〉 〈図三〉のデータをもとにして、海洋保全をテーマにあなたの意見を、理由を含めて、次の条件にしたがって書きなさい。

(条件) ① 題名や氏名は書かない。

- ② 一〇〇字以上一二〇字以内で書く。
- ③ 段落は分けない。
- ④ 句読点や「」も一字とする。

